

第36回基本政策部会・第58回宇宙安全保障部会合同部会
議事要旨

1 日 時

令和5年11月28日（月）8:30～11:00

2 場 所

赤坂インターシティコンファレンス 3階301会議室

3 出席者

(1) 委 員

（基本政策部会）

白坂部会長、常田部会長代理、青木委員、石田委員、白田委員、漆間委員、片岡委員、中須賀委員、南委員、山崎委員

（宇宙安全保障部会）

鈴木部会長、片岡部会長代理、青木委員、石井（満）委員、石井（由）委員、久保委員、白坂委員、新谷委員、土屋委員、中須賀委員、名和委員

(2) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 石井理事

(3) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 風木局長、渡邊審議官、滝澤参事官、加藤参事官

(4) 関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課	上野推進官
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課	上田課長
経産省製造産業局宇宙産業室	伊奈室長
国土交通省大臣官房技術調査課技術開発推進室	村上室長
環境省地球環境局総務課気候変動観測研究戦略室	岡野室長
防衛省防衛政策局戦略企画参事官付宇宙海洋政策室	中野屋室長
内閣官房国家安全保障局	西脇審議官

(5) 説明者

日本経済団体連合会 漆間委員長
日本航空宇宙工業会 山岡常務理事

4 議事要旨（○：意見等）

【第58回宇宙安全保障部会単独議題】

事務局から資料1に基づいて説明、防衛省から資料2に基づいて説明。委員から以下の意見があった。

<宇宙システムに係る不測事態対処のための取組の状況について>

○ 電子メールでは情報漏洩のリスクがあるため、情報共有範囲でRED、宛先限りとする情報は、特別な暗号化や本人認証を行うなど、情報の伝達経路上もセキュリティを

確保する必要がある。

- 海外の衛星運用事業者が提供するサービスに関する不具合等も、利用者側の国内事業者等から然るべく報告がなされるよう検討が必要である。
- セキュリティ・クリアランスの観点から、官民協議会の構成員から報告された情報の取扱いも重要であり、セキュリティ・クリアランスに係る政府全体の検討を踏まえ、然るべく検討する必要がある。

<宇宙領域把握（SDA）に関する取組について>

- 宇宙領域把握（SDA）はリアルタイム性が重要であり、防衛省・自衛隊が運用するSSA運用システムを米国のシステムと接続させ、リアルタイムで状況を把握する必要がある。
- 諸外国が開発を進めている無人往還宇宙機は、人工衛星の回収にも使用し得るため注視が必要である。

【第36回基本政策部会・第58回宇宙安全保障部会合同議題】

事務局から資料3に基づいて説明、日本経済団体連合会及び日本航空宇宙工業会から資料4-1～4-2に基づいて説明。委員から以下の意見があった。

<宇宙技術戦略に関する考え方について>

- 宇宙技術戦略の策定は非常に重要である。世界的な技術トレンドなどの調査結果や産業界の声等も踏まえ、政府利用も含めた日本の勝ち筋の議論が大切。しっかりやって欲しい。

<宇宙技術戦略に対する課題・期待について>

- 航空宇宙工学を学んだ学生が、宇宙業界を選んでくれるよう、日本全体として「宇宙に注力している」という雰囲気をつくり、学生のモチベーションを高める必要がある。
- 例えば鉄道業界では、一つの技術に対して人材を育て上げるのに7～10年程度かかる。人材育成には、一定程度時間がかかるので、宇宙技術戦略策定にあたっては、現時点で重要な技術のみならず、次世代の育成まで見据えたうえで、技術の選定を行う必要がある。
- 企業にとって、適正利益の確保は事業継続のために必須の要件。そのためにも、JAXAの契約制度の見直しは重要。
- どこまでを国内技術にこだわり、どこから海外技術に頼るのか、線引きが必要。コストや、海外展開によるスケールメリットなどバランスよく検討し、ローリングしていく必要がある。

<宇宙基本計画工程表の改訂について>

- 宇宙領域における安保確保はスピード感が重要。スケジュールをきちんと立てて取り組んでいくことが必要。
- 宇宙技術戦略、宇宙戦略基金の議論と両輪で、出口としてのサービス調達の在り方も並行して議論していく必要がある。
- 宇宙交通管理について、日本の基準を世界に広め、国際的な市場サービスの仕組みを日本が作っていけることが望ましい。
- 月に関しては、欧米との競争の中において、日本がまず最初に実証を行い、発言権

を獲得していくことが重要。

- 現在の ISS について、使い倒すことが大切。民間の力を使って徹底的に利用開拓をして欲しい。